



## 情報発信

ほぼ三年間、歯科の情報を発信してきた。機会を与えていただき、支えてくださった中日新聞の方々に心から感謝したい。最後に今までの発信した内容から、その後を報告したい。



## 鈴木 龍 医療法人社団八龍会

初めに、顎の発達不足は不正咬合<sup>不正咬合</sup>だけでなくいろいろな影響があること。顎の発達時期に成長促進治療をした結果、鼻疾患や呼吸器疾患が改善した症例を数多く体験した。医科の先生方には、ぜひ興味を持っていただきたい。医科の領域ではあるが、治療は歯科との連携が必要だ。

二つ目は、インプラン

□□ 44 □□

## 臨床の立場から今後

トに用いられているチタンのフッ素による腐食である。チタンの表面性状によっても異なるが、インプラントに直接フッ素塗布をしないほしい。インプラントに関わらない先生には、こうした物理特性などの情報が伝わりにくい。

三つ目は、口腔内<sup>口腔内</sup>を撮影することで歯（修復物補綴物<sup>補綴物</sup>）が作れる技術が本格化したこと。アレルギーの少ないセラミックスやレジンが材料であり、型をとる作業もいらなくなる。近い将来、保険適応となれば普及は早い。

最後にインプラント周囲炎や歯周病に対する抗菌治療が有効であること。先日のインプラント学会で発表させていたのだが、まだ検証はこれからだと思っている。私は臨床家だから、臨床からの発信はさせていた

だ。このコラムから一つでも患者さんのお役に立てることがあったら幸いである。

（終わり）